

ずいそう



美しい自然と溪流魚たちに感謝

大作孝宏



私は千葉県松戸市で生まれ育ちました。近くには江戸川が流れ、演歌で有名となった矢切の渡し、対岸には寅さんで有名な柴又帝釈天があり、都心に隣接した長閑な土地で育ちました。小学生の頃は、自転車を走らせ江戸川へ注ぐ水路でタナゴやフナ等を釣って遊び楽しかったことを今でも思い出します。

小学生から中学生、高校生になると移動手段が自転車から電車移動へと変わり活動範囲も広範囲になり、また釣りの方法も餌釣からルアーフィッシングへと変わってきました。ルアーとは、小魚や、ミミズのような形をした疑似餌で、そのルアーを本物の様に竿で操り魚を釣るのです。このルアーフィッシングにのめり込む様になり、お小遣いを貯めてロッドやリール、ルアーも様々な種類の物を集め、非常に楽しく釣りをしていたことが本当に懐かしく思います。

社会人になり、まだまだ半人前の頃に結婚をし、日々の生活と、慣れない仕事に追われ、いつの頃からか大好きだった釣りから遠ざかり大切に使っていた釣道具は、部屋の片隅に置かれたままでした。仕事にも慣れ、いつまでも若手と思っていましたが、気付けば中堅世代となっておりあつという間に十数年が経ってしまいました。

そして、2009年に入社後は考えもしなかった海外赴任を突然命じられ、赴任先は当時急成長をしていた中華人民共和国で一年間の赴任となりました。言葉や文化の違い、そして日本とは生活環境が変わったストレスなのでしょうか、たった2ヶ月で体重が8kg落ち、帰国時には15kgも体重が落ちておりました。海外赴任時に一時帰国をした時に、久々に釣りをしたのが溪流釣りでした。一緒に海外赴任をした先輩も釣り好きな人で、一時帰国時のリフレッシュに溪流釣りに誘わ

れたのがきっかけでした。久々の帰国、自宅で日本食を堪能し、翌日は先輩と一緒に奥只見湖へ向かいました。新潟と福島の間境に位置しており、山深く自然豊かな場所で、時期は夏でしたが涼しく美しい湖と溪流でした。都会の雑踏から離れ、澄み渡る青々した空と緑色の広葉樹が鮮やかで、流れる溪流は透明度が高く冷たい流れでした。ロッドにリールを取付け、ラインを通し、ルアーを結び付け、狙った場所へキャスト。透明度の高い溪流はルアーの泳ぐ姿もはっきりと見え、時折そのルアーを追いかけてくる溪流魚が癒してくれました。釣れても釣れなくても、自然の中で涼しい風とマイナスイオンを浴び、奥深い景色を見るだけで十分でしたが、溪流釣り初心者の私たちは思いもよらぬ釣果に恵まれました。

一泊二日の溪流釣りを終え、名残惜しむように奥只見を後にし、再び上海へ戻りました。日本の大自然とは対照的な上海での生活にもいつのまにか慣れていましたが、気付けばあつという間の一年間。そして日本に戻る事が決まり、代理店での最後の仕事を終え、夜は多くの従業員と酒を交わし一年間の思い出話に花を



梅雨時期に出会った32cmのヤマメ（雌）

咲かせました。もちろん通訳を通して。

海外での仕事は大変に貴重な経験となり、海外の方との交流を図ることができたのは私にとって大きな財産となりました。

日本へ帰国し、新たな部署への赴任日まで少し時間があつたため、先輩と一緒にまだ記憶に新しいあの大自然へ向かい溪流ルアーを楽しみました。前回訪れた時とは違う感覚で釣りを楽しむことができ、小さい頃の無心で楽しんでいた感覚を思い出しました。

透明度が高い溪流を泳ぐルアーに、岩陰から突然飛び出してくる岩魚、川の流心から現れるヤマメを釣り、心の奥に眠っていた“釣り魂”に火がつき、溪流ルアーフィッシングにのめり込むことになりました。溪流釣りは、地域によって異なりますが禁漁期間が設けられ、3月～9月までの期間しか釣りが出来ません。禁漁期間中には釣り道具を品定め。昔とは状況も変わり、少々お小遣いにも余裕ができ、拘るときりがないのですが、

趣味の物に妥協は無く道具を買い揃え溪流釣りシーズンを迎えるのが毎年楽しみとなっております。溪流魚は主に岩魚やヤマメを釣っているのですが、特にこのヤマメは警戒心が強く、非常に美しい魚体の溪流魚なのです。体の側面に上下に長い斑紋模様があり、“溪流魚の女王”とも呼ばれております。この綺麗なヤマメに出会えた時は感動し、何時までもその魚体に見惚れてしまいます。特に9月頃の魚体は、産卵前の婚姻色になり何とも言えない美しい色合いになります。このような大自然の恵みに感謝をし、いつまでもこの自然を大切にしないでほしいと思います。そしていつも快く私を送り出してくれる家族に感謝感謝です。

是非、皆様も機会があれば溪流釣りを経験してみたいかどうか、きっと溪流魚の美しさの虜になると思います。

——おおさく たかひろ 日立建機日本(株)
広域営業統括部 建設グループ 営業主任——